日本人英語学習者の読解習慣と情意要因に関する実態調査

― 勉学以外の活字接触度と英文読解への態度を焦点に ―

吉　川　り　さ
広島大学外国語教育研究センター

１．はじめに

本稿の目的は，勉学以外で触れる英語の活字接触度と，読解に対する情意要因を調べ，両者の関連性を探索的に調査することである。勉学以外の時間を自らの意思で英文を読むことに時間を割り当てることは，英語に対する情意的な要因（例：動機や態度）に支えられており，そしてその情意要因は結果として英文読解力の発達に貢献することが報告されている（El-Khechen, Ferdinand, Steninmayr, & McElvany, 2016; Guthrie, Wigfield, Metsala, & Cox, 1999）。本調査では，英語を外国語として学ぶ日本人大学一年生が，勉学以外に英語の活字を日常的にどの程度触れているか（読んでいるのか）を探り，その読解習慣が，彼らの読解および英語に対する態度とどのような関連があるかを検討する。客観的に観察可能な読み行動と，直接観察できない英語に対する内的な態度を同時に検討することで，行動と態度の関連性を検討し，学生の実態を探ることが本調査の狙いである。

２．本調査の背景

これまでの外国語および第二言語としての英文読解における研究では，英語学習者の読解力向上は語彙や文法知識などの能力の側面と，学習者個人の読解そのものに対する態度や意欲を指す情意の側面で捉えられている（Jeon & Yamashita, 2014; Schiefele, Schaffner, Möller, & Wigfield, 2012）。能力の側面に焦点を当てた研究は数多く，読解力に貢献する要素は語彙・文法知識にとどまらず，単語単位の処理を表すディコーディング（音韻符号化）能力（例：Erler & Macaro, 2011）から，文（章）単位の処理を表す推論能力（例：van der Meer, Beyer, Heinze, & Badel, 2002）といった様々な要因が特定されつつある。情意側面に焦点を当てた研究では，読解に対する不安や動機といった主観的な感情や気持ちを，アンケート項目を通して測定し，読解に対する肯定的あるいは否定的な感情や気持ちが英語習熟度と少なからず関連していることが明らかになっている（Jiménez et al., 1995, 1996）。このような学習者が読解に対して抱く態度（reading attitude）は，読み行動となって表面化し，彼らの内発的動機を反映していると考えられている（Guthrie, et al., 1999）。そのため，情意側面を別の観点から捉えた研究では，どのような活字情報にどの程度触れているか（読んでいるか）という行動として反映される読み行動を客観的指標として使用している（El-Khechen et al., 2016）。彼らの読解態度の肯定性・否定性を，客観的な行動から把握するアプローチである。しかしながら，個人の読解行動に着目し，客観的な側面から学習者の情意面を捉える研究は現時点では乏しいのが現状である。

本調査では，学生の内発的な動機によって表面化される読み行動が，英語を外国語として学ぶ大学生にどの程度見られるのかの実態を探ることを目的とする。そのため具体的に，勉学以外の時間で，英語の活字に触れる頻度を測定する。読解習慣については，言語の影響を考慮し，日本語の活字接触量も同時に測定する。読み行動の測定に加え，英文読解をどのように捉えているの

かという情意的な態度も測定し，習慣的な読み行動が学生が読解に対して抱く態度とどのような関連性があるかを探る。

3．調　査

3.1. 参与者

本調査の参与者は，日本語を母語とし外国語として英語を学習する大学一年生計 249 名（男女比は 141：108）であった。英語力は TOEIC 平均 535（SD = 109）であった。また，彼らの専攻は教育・法・理・生物生産・医学部のように多岐に渡っていた。

3.2. 読解習慣に関するアンケート材料と手続き

本調査は, Stanovich and West（1989）を参考に, アンケート項目を作成した（具体的なアンケート項目および各尺度は付録参照）[1)]。勉学以外の英文読解に関して，できるだけ実生活に関連させるために書物や新聞のみでなく，ソーシャルネットワークサービス（SNS）やインターネットのような電子ツールから得る読解も調査対象に含めた。また，Stanovich and West では接触頻度に関する測定尺度が「年に数回程度」「月に数回程度」「1 週間に 1 回程度」「1 日に 1 回程度」というように，頻度の間隔がやや大きすぎるため，本調査では，時間幅を一週あるいは一日当たりの頻度に限定し、その時間内での各読解に割く時間を調査した。なお，本調査の焦点は勉学以外での英語での読解量ではあるが，日本語での読解量も比較対象の目安として調査項目に含めた。

アンケートは Google ドキュメントのフォーム機能を利用し，回答を収集した。回答時には，勉学以外で普段読んでいることに焦点を当てるよう指示した。

4．結　果

4.1. 読解習慣に関するアンケート結果

本節では，学生が日頃読んでいるテキストの種類と頻度，その際に使用する言語（英語・日本語）をまとめた結果を報告する。まず図 1 では，週当たりで英語あるいは日本語での勉学以外で書物を読む頻度を尋ねた結果を示す。

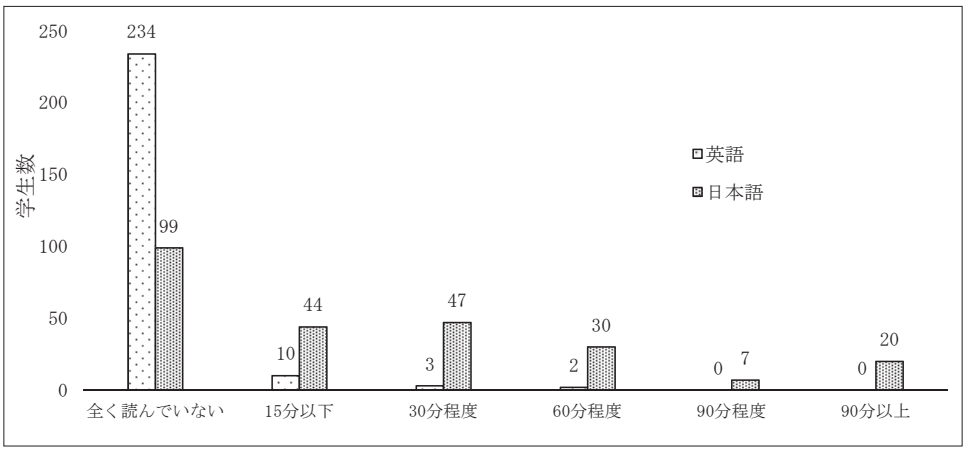

図 1　勉学以外での本の読解量（週平均）

図 1 を見るとわかる通り，英語・日本語ともに，勉学以外に本を全く読んでいない学生は確認できたものの，日本語での書物を読む頻度は英語の場合に比べて高いことがわかる。次に，図 2 では，英語あるいは日本語での（電子）新聞を読む頻度を尋ねた結果を示す。

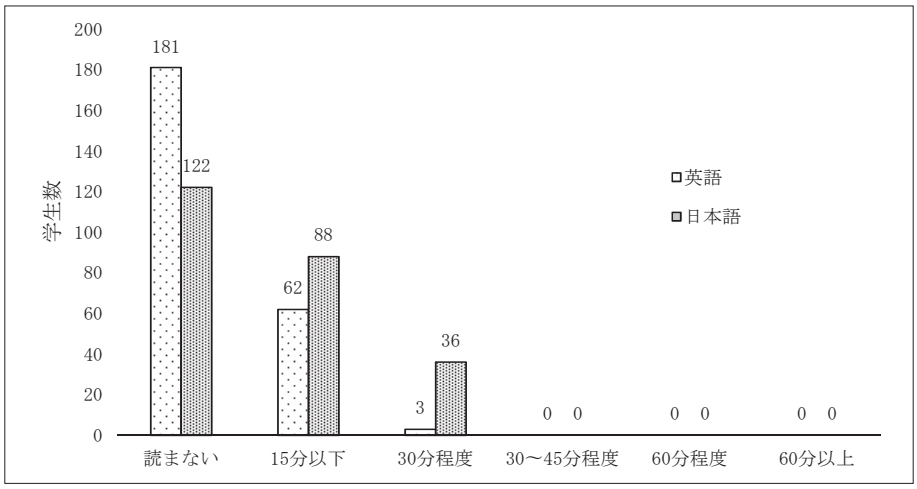

図２　（電子）新聞の読解量（週平均）

新聞の読解量に関しては，英語も日本語も読まない学生が全体の約 5～7 割程度に達し，週平均で 30 分以上，日本語および英語で新聞を読む学生は一人もいなかった。次に，一日平均での SNS 使用度を図 3 に，目的別で異なる使用言語を表した結果を図 4 に示す。

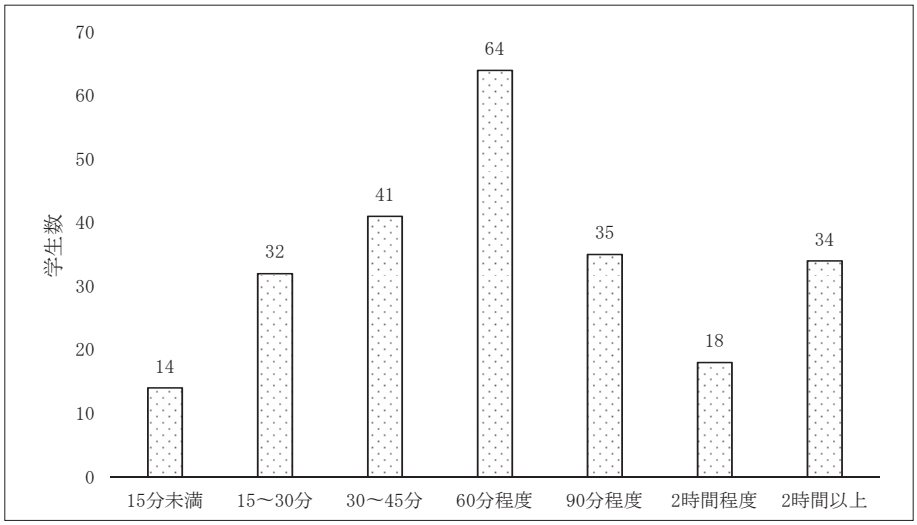

図３　SNS 使用頻度（日平均）

図 3 は，「SNS のアカウントを持っていない」8 名と「アカウントを持っているが，使用して

いない」3 名を除いた結果を示している。一日平均での SNS 使用は 60 分程度が最も多く，その間に行われる書き込みの閲覧や情報収集には主に日本語が用いられ，英語はほとんど用いられていないことがわかる（図 4）。次に，SNS を除いた一日平均でのインターネット使用頻度（図 5）とその目的別に異なる使用言語を表した結果（図 6）を示す。

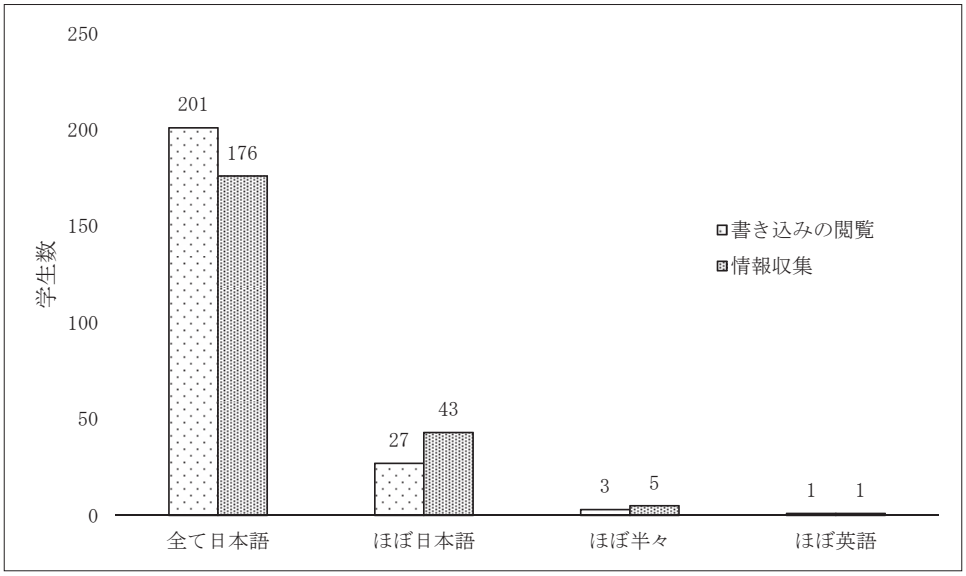

図４　SNS 使用時の目的別使用言語（日平均）

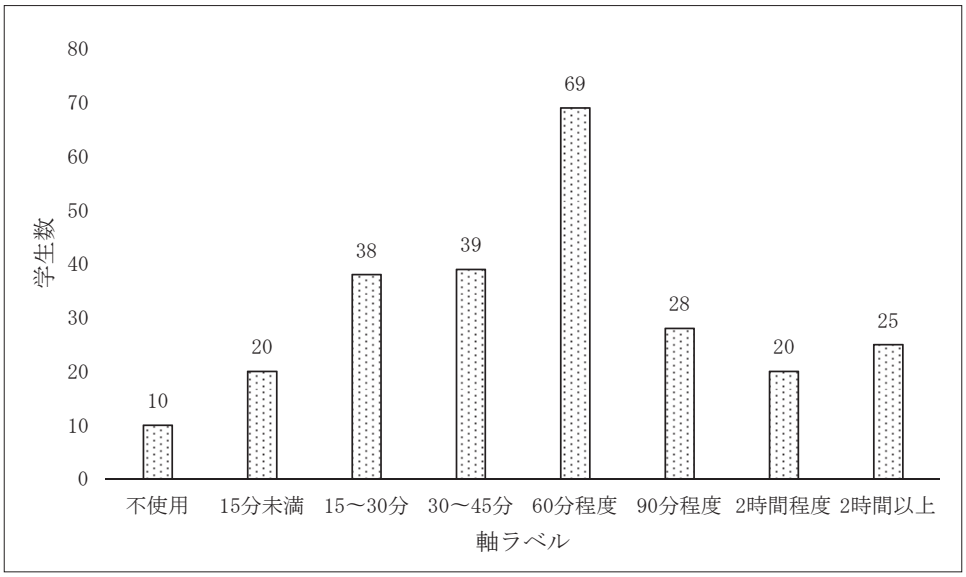

図５　インターネット使用頻度（日平均）

インターネットを普段使用しない 10 名（4%）を除き，SNS と同様に，60 分程度インターネットを使用する学生が多いことがわかる。また，「読む」行動を表すインターネット上での情報収

集やウェブページの閲覧は，英語はほとんど使用されておらず，日本語使用に依存していることがわかる。

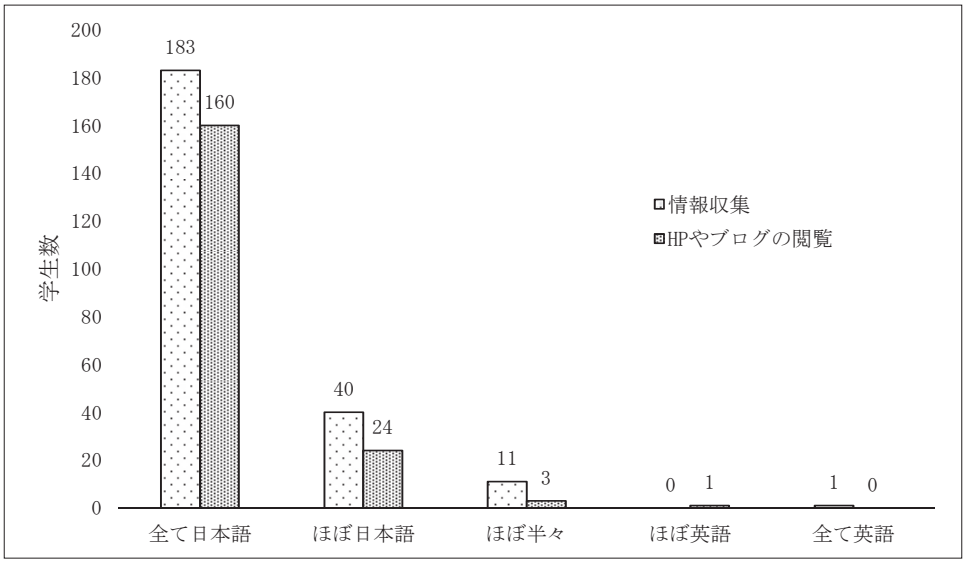

図６　インターネット使用時の目的別使用言語（日平均）

4.2. 読解態度に関するアンケート結果

次に，読解（リーディング）に対する主観的な態度（得意度・好感度・重視度）をまとめた結果を図 7 に示す。得意度については「得意ではない」と回答した学生が全体の 52%を占めた一方，中間的回答を除き，得意だと感じる学生は全体の 24%にとどまった。

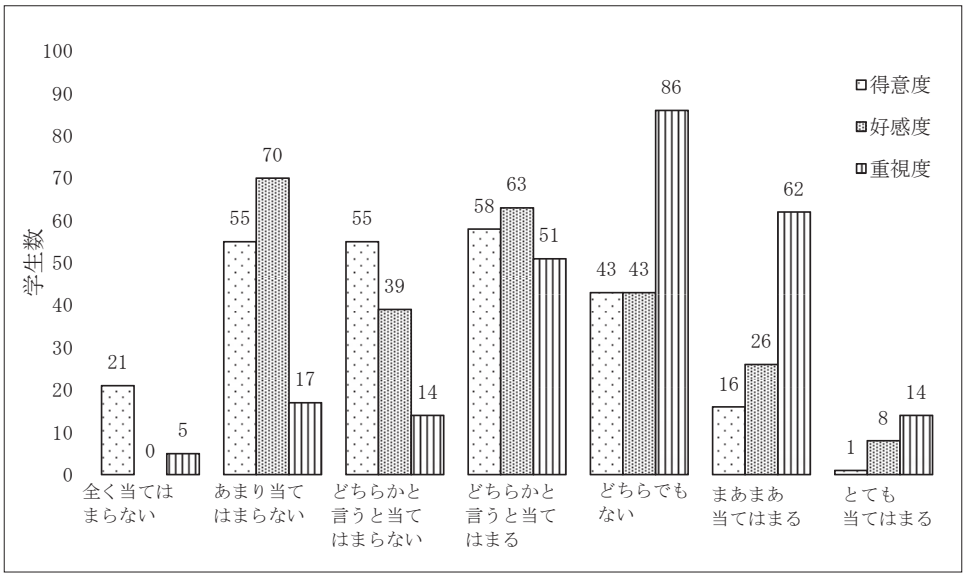

図７　リーディングに対する主観的態度（得意度・好感度・重視度）

読解への好感度については,「好きではない」と回答した学生が全体の 43%（109 名),「好きだ」と回答する学生は約 30%（77 名）であった。このことから，得意度と同様に否定的な態度を持つ学生が比較的に多いことがわかる。一方，リーディングへの重視度については，重要視していない学生が全体の 14%（36 名）であったのに対し，重要視している学生は全体の 65%（162 名）を占めていた。

最後に，図 8 ではリーディングのみに焦点をととめずに，4 技能に対する学生の主観的態度を，得意度・好感度・重視度の観点から調べた結果を示す。得意度については，図 7 の結果ではリーディングが得意ではないと回答した学生が半数を占めたにもかかわらず，リーディングを「最も得意」を選択した学生が最も多く，またスピーキングを「最も不得意」を選択した学生が最も多い結果となった。同様の傾向は重視度においても見られた。図 7 ではリーディングを重視する回答数が全体の約 65%を占めていた一方，4 技能で比較するとリーディングを重視する回答数は最も低く，スピーキングを重視する回答数が最も多い結果となった。リスニングにおいては，どの観点においても中間の回答で安定し，ライティングにおいては，全ての観点において否定的な回答であった。

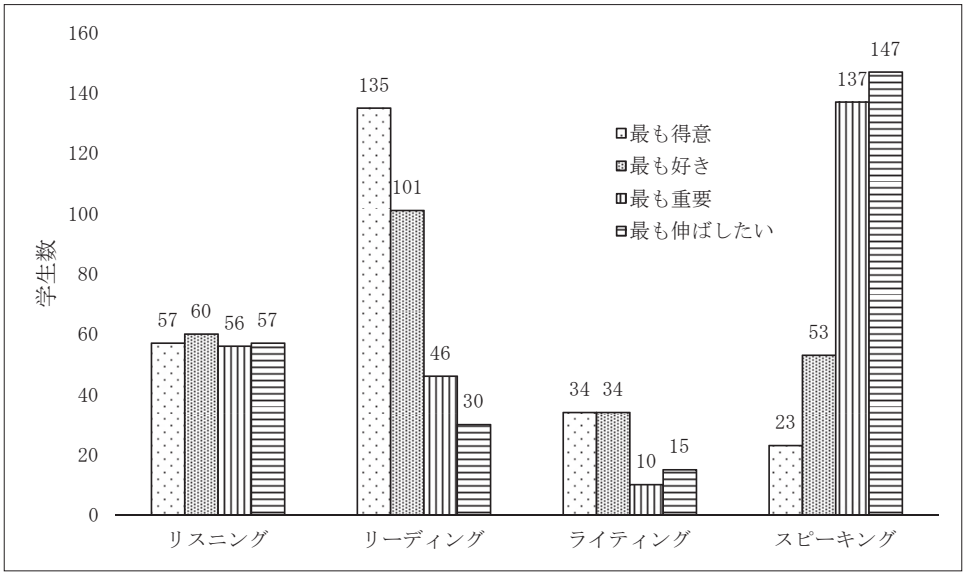

図８　４技能に対する主観的態度（得意度・好感度・重視度）

５．考察とまとめ

本調査では，外国語として英語を学ぶ大学生一年生が，勉学以外の時間に英語で書かれた何らかのテキストを日・週平均でどの程度触れているかを調査し，その読解習慣が，個人が抱く読解への態度とどのように関連しているかを，アンケート項目を用いて探索的に調べた。学生がそもそも勉学以外の時間で書き物に触れているのかを把握するために，英語への接触頻度に加えて，日本語への接触頻度も調査した。

調査の結果から，自らの意思で勉学以外の目的で日常的に活字に触れる際には，日本語使用に圧倒的に依存しており，英語を通して，活字に触れる学生はほとんど見られなかったことが明ら

かとなった。しかしながら同時に，図 7 が示す興味深い点として挙げられることは，読解に対する内的な態度（得意度や好感度）自体は肯定的ではないものの，何らかの（外的な）必要性や必然性を感じているがゆえに，結果的に読解を重視している学生は比較的に多いということである。また，読解を他の 3 技能と比較すると，読解は一番得意であると感じられていると同時に，最も軽視されている技能であるということも明らかになった。これらの点を踏まえて，勉学以外の時間で英語の活字に触れる学生が本調査で見られなかった理由を考えると，おそらく，本調査の学生は，他の技能（スピーキング・リスニング）をより重視すると同時に，他の 3 技能よりも得意だと感じているがゆえ，読解そのものに対しては重要と考えてはいるが，得意と感じたり好きと感じたりする度合い自体が低いため，勉学以外の時間を英語の活字に触れる時間として割り当てることをしないのではないかと思われる。読解に対する学生の態度を向上させる方法を追究することは，読解習慣の定着と読解力の発達に貢献すると考えるが，本稿の目的から外れるためこれ以上の考察は行わないが，今後の調査の一方向を示すと考える。

最後に，本調査の課題点を挙げる。本調査では，学生が選択した回答から彼らの実際の読解習慣や読解に対する主観的な態度は明らかになったものの，リッカード式尺度に依存した回答形式であったため，彼らがその回答を選んだ理由が不明である。読み行動そのものの把握に加えて，行動に起因する理由を同時に検討できるよう，自由記述欄を設けて学生が抱く内的な態度をさらに表面化させる必要がある。さらに，本調査は大学一年生のみを対象にしたため，学年の変化によって異なる活字への接触度や読解に対する態度を明らかにできていない。学年の要因も取り入れることで，より動的かつ包括的に活字接触と内的な態度の関係を浮き彫りにすることができよう。

注

1）本稿は，授業活動外の英文読解に焦点を当てているため，調査時に測定した英文読解以外に関する他のアンケート項目の記載およびその結果は省略している。

参考文献

El-Khechen, W., Ferdinand, H. D., Steinmayr, R., & McElvany, N. (2016). Language-related values, reading amount, and reading comprehension in students with migration backgrounds. *British Journal of Educational Psychology, 86,* 256–277. doi:10.1111/bjep.12102

Erler, L., & Macaro, E. (2011). Decoding ability in French as a foreign language and language learning motivation. *The Modern Language Journal, 95,* 496–518. doi:10.1111/j.1540–4781.2011.01238.x

Guthrie, J. T., Wigfield, A., Metsala, J. L., & Cox, K. E. (1999). Motivational and cognitive predictors of text comprehension and reading amount. *Scientific Studies of Reading, 3,* 231–256. doi:10.1207/s1532799xssr0303_3

Jeong, E. H., & Yamashita, J. (2014). L2 reading comprehension and its correlates: A meta-analysis. *Language Learning, 64,* 160–212. doi:10.1111/lang.12034

Jimenez, R. T., Garcia,G. E., & Pearson, P. D. (1995). Three children, two languages, and strategic reading: Case studies in bilingual/monolingual reading. *American Educational Research Journal, 32,* 67–97. doi:10.3102/00028312032001067

Jimenez, R. T., Garcia,G. E., & Pearson, P. D. (1996). The reading strategies of bilingual Latina/o students

who are successful English readers: Opportunities and obstacles. *Reading Research Quarterly, 31,* 90-112. doi:10.1598/RRQ.31.1.5

Schiefele, U., Schaffner, E., Möller, J., & Wigfield, A. (2012). Dimensions of reading motivation and their relation to reading behavior and competence. *Reading Research Quarterly, 47,* 427-463. doi:10.1002/RRQ.030

Stanovich, K. E., & West, R. F. (1989). Exposure to print and orthographic processing. *Reading Research Quarterly, 24,* 402-433. doi:10.2307/747605

van der Meer, E., Beyer, R., Heinze, B., & Badel, I. (2002). Temporal order relations in language comprehension. *Journal of Experimental Psychology: Learning, Memory, and Cognition, 28,* 770-779. doi;10.1037/0278-7393.28.4.770

付録：授業外での英文読解に関するアンケート項目

（1）大学の授業あるいは研究で使用する教科書・参考書・論文以外に，英語（日本語）で書かれた本を，週あたり平均してどの程度読んでいますか。

1）全く読んでいない
2）15 分以下
3）30 分程度
4）60 分程度
5）90 分程度
6）90 分以上

（2）英語（日本語）で書かれた（電子）新聞を週あたり平均してどの程度読んでいますか。

1）読まない
2）15 分以下
3）30 分程度
4）30～45 分程度
5）60 分程度
6）60 分以上

（3）SNS（例：facebook，Twitter，LINE）を 1 日にどの程度利用していますか。

1. アカウントを持っていない
2. アカウントを持っているが利用していない
3. 15 分未満
4. 15～30 分未満
5. 30～45 分未満
6. 60 分程度
7. 90 分程度
8. 2 時間程度
9. 2 時間以上

A）知人の発信（書き込み）の閲覧時の使用言語

1. 全て日本語
2. ほぼ日本語だが，英語も使用する
3. ほぼ半々
4. ほぼ英語だが，日本語も使用する
5. 全て英語

B）情報収集（閲覧・受信）時の使用言語

1. 全て日本語
2. ほぼ日本語だが，英語も使用する
3. ほぼ半々
4. ほぼ英語だが，日本語も使用する
5. 全て英語

（4）インターネットは 1 日でどの程度使用していますか。

1. 使用しない

2. 15 分未満
3. 15〜30 分未満
4. 30〜45 分未満
5. 60 分程度
6. 90 分程度
7. 2 時間程度
8. 2 時間以上

1. 趣味に関する情報収集時の使用言語
2. 他人のホームページ・ブログの閲覧時の使用言語
3. 自身のホームページ・ブログの更新の使用言語
    1. 全て日本語
    2. ほぼ日本語だが，英語も使用する
    3. ほぼ半々
    4. ほぼ英語だが，日本語も使用する
    5. 全て英語

（5）リーディング（読解）はどの程度得意ですか。

1. 全く得意ではない
2. あまり得意ではない
3. どちらかというと得意ではない
4. どちらでもない
5. どちらかというと得意である
6. まあまあ得意である
7. とても得意である

（6）リーディング（読解）はどの程度好きですか。

1. とても好きである
2. あまり好きではない
3. どちらかというと好きではない
4. どちらでもない
5. どちらかというと好きである
6. まあまあ好きである
7. とても好きである

（7）リーディング（読解）はどの程度重視していますか。

1. 全く重視していない
2. あまり重視していない
3. どちらかというと重視していない
4. どちらでもない
5. どちらかというと重視している
6. まあまあ重視している
7. とても重視している

（8）4 技能の中で一番得意な技能は何ですか。

（９）４技能の中で一番好きな技能は何ですか。
（10）４技能の中で一番重視している技能は何ですか。
（11）４技能の中で一番伸ばしたい技能は何ですか。

1. リーディング
2. リスニング
3. ライティング
4. スピーキング

ABSTRACT

The Relationship between Habitual Reading Behavior and Affective Domains: Out-of-School Reading Amount and Reading Attitude

Lisa YOSHIKAWA
Institute for Foreign Language Research and Education
Hiroshima University

This paper reports a survey on the type and frequency of L2-English written input that the Japanese university EFL students usually obtain outside class, as well as on their attitude to L2-English reading. Exposure to L2-English input outside class is motivated by affective factors, such as motivation and attitude, which consequently contribute to reading development (El-Khechen, Ferdinand, Steninmayr, & McElvany, 2016; Guthrie, Wigfield, Metsala, & Cox, 1999). The present survey aims to discover what they (do not) read, why they (do not) read, and what is behind their reading behavior. A total of 249 Japanese university EFL students answered 11-item questionnaires. Some measured the habitual reading behavior regarding books for pleasure, newspapers, contacting and information gathering on social network services and the Internet, and the other measured the affective attitude to L2-English reading as well as to four language skills regarding self-efficacy, interest, and learning value. The results revealed that the students do not usually obtain English-written input other than in the classroom, possibly due to their relatively high self-efficacy and lack of interest in reading and of learning value compared with the other learning skills (i.e., speaking and listening).